

一般社団法人  
ヤマネ・いきもの研究所  
2021 年度事業報告書

2021 年 4 月 1 日から 2022 年 3 月 31 日まで

一般社団法人 ヤマネ・いきもの研究所

2021年4月から2022年3月における当研究所について、実施致しました関連活動内容を以下に報告する。

## 1. 事業実施の方針（2019年度からの継続）

- (1) ヤマネを総合的に研究し、その成果を基に保全・教育を行い、地球社会を支える人材を育成する
- (2) いきものの不思議を研究し、その成果を基に保全し、いきもの・自然・人を愛する人々を育成する
- (3) 研究成果・活動成果を社会に発信する
- (4) ヤマネ・いきものを通して、市民・企業・研究者・大学・学校・行政等と連携することで、人々が地球社会保全に参画することを促す
- (5) 生物多様性保全・持続可能な地球社会達成に貢献する

## 2. 研究員について（原案）

メンバー

野鳥の会 山梨支部 事務局 小林美博氏

(公財)キープ協会 中山孝志氏

村山真奈美氏（旧姓 岩淵）

岡山理科大学 講師 布目三夫氏

元関西学院大学 3名

活動内容

生き物関連調査・研究活動、教育活動・研究、SDGsに関わる活動をDWIと協働で実施。研究成果については、共有していただく

### 3. 研究活動（受託調査以外）

ヤマネの研究及び山梨県北杜市周辺の生物調査と野鳥調査など計8つ実施した（表1）。

表1. 2021年度に実施した研究活動

業務名	日付(期間)	実施場所	概要	備考
1 ヤマネ基礎調査	2021年4月～ 2022年3月31日	山梨県北杜市 清里	ヤマネの生態調査を実施。5頭のヤマネを捕獲した。そのうちの捕獲した1頭に発信機を装着し、冬眠場所について調査を実施。そのうち、1頭に関して、TV番組『キンプリ。』の撮影に使用。	
2 ヤマネ基礎調査	2021年3月16日	山梨県 富士スバルライン	富士スバルラインのアニマルパスウェイを架設地選定のためのヤマネ調査用巣箱架設。	(一社)アニマルパスウェイと野生生物の会の補助あり。
3 ヤマネ基礎調査	2021年3月22日	山梨県北杜市 小淵沢	南アルプスによるヤマネに対する遺伝的な分断の影響を探るための調査地を設置。本調査地はApWA設置候補地としても考慮。	(一社)アニマルパスウェイと野生生物の会の補助あり。
4 ヤマネ基礎調査	2021年 1月17日～24日	島根県 隠岐の島町 (島後) 西ノ島町(島前)	・島後は、通常の巣箱調査と新規巣箱設置を実施。 ・島前は、巣箱設置。 両地点共に、現地団体と共に実施。	ニホンヤマネ保護研究グループの助成金も利用
5 ヤマネ基礎調査	2021年3月29日	兵庫県西宮市 六甲	六甲山にヤマネの生息確認調査と巣箱の撤去を行った。	
6 環境DNAを用いたヤマネの生態調査	通年		ヤマネの糞を福山大学の佐藤准教授に送付し、分析を依頼。ヤマネが森林内で何を餌資源としているかを調査。なお、これまでは山梨県清里の糞と和歌山県周参見町でヤマネの糞が確認されている。 共同研究者: 佐藤淳氏(福山大学)	ニホンヤマネ保護研究グループの助成金も利用
7 ニホンヤマネのゲノム解析の研究	通年		ヤマネのゲノムの基本型を確認する研究。 共同研究者: 木下豪太氏(静岡遺伝研究センター) 安田俊平氏(東京都医学総合研究所) 布目三夫氏(岡山理科大学)	ニホンヤマネ保護研究グループの助成金も利用
8 ニホンヤマネの分類学的研究	通年		毛色から研究を進めることで、岡山理科大学の布目氏と打ち合わせをしている。 共同研究者: 安田俊平氏(東京都医学総合研究所) 布目三夫氏(岡山理科大学)	ニホンヤマネ保護研究グループの助成金も利用
9 繁殖システムと音声コミュニケーション研究		山梨県北杜市 下黒沢	ヤマネの繁殖期に合わせて、繁殖行動と音声を録音する研究を行った。	
10 里山の生き物調査	通年	山梨県北杜市 下黒沢	研究所周辺に生息する生物種、特に田んぼ周辺の水路に生息する昆虫について調査。報告書作成中。 調査は、各月実施。 共同研究者: 中山孝志氏	
11 鳥調査	通年	山梨県北杜市 下黒沢	研究所周辺に生息する鳥類について調査。報告書作成中。 調査は、各月実施。 共同研究者: 小林美博氏	

#### (1) 山梨県北杜市のヤマネ調査

八ヶ岳山麓に2つの調査地（調査地G、調査地Y）を設けた。調査地Gには、巣箱60個、調査地Yには、巣箱を51個架設した。調査地Gは2021年4月から10月まで毎月1回巣箱内部を調べた。捕獲したヤマネは体重、性、成獣か亜成獣かを調べた。ヤマネの食物を調べるため糞からDNA分析を行うため、巣箱内部の糞を調べ、採集し、また、体重測定時に脱糞した場合、採取した。糞は、福山大学の佐藤淳博士に送付し、分析した。

#### 【巣箱調査】

2021年4月から10月まで、毎月1回、巣箱内の利用状況を定期的に調査した。巣箱内にてヤマネを確認した場合は一時的に捕獲をし、体重・性・繁殖状況等を記録した後、マーキングをした（表2）。ヤマネを確認したのは、調査地Yでは、6月、9月、10月で計5頭であった。調査地Gでは、9月、10月で計5頭であった。

表 2. 北杜市における巣箱調査結果

	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		調査地 合計
	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	
調査地G	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	2	5
調査地Y					1	0	0	0	0	0	0	1	3	0	5
月合計	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	2	4	2	

※調査地Yは5月初旬に設置し、5月末より調査開始

ヤマネの巣材はG地区では、樹皮と枯葉を用いていた（図1）。Y地区では蘚苔類を用いていた（図2）。



図 1. G地区でのヤマネの樹皮等の巣材



図 2. Y地区でのヤマネの蘚苔類の巣

また、ヒメネズミの枯れ葉で作成した巣をヤマツツジの枝上のでんぐす病によりできた小枝の間に確認した（図3,4）。ヤマネもてんぐす病を営巣場所として利用するため、ヤマネ、ヒメネズミ共に、てんぐす病が営巣する場所として重要であることが示された。



図 3. 樹上のヒメネズミの巣



図 4. 枝の間から取り出したヒメネズミの巣

【発信機調査】

G地区でヤマネに発信機を装着し、冬眠場所の調査を2021年11月17日（図5）から3月23日まで行った。リリースした地点から約60mの落ち葉の下で冬眠していることが確認され（図6）、3月まで同じ場所にいることが確認された。



図 5. 夜の発信機装着個体のリリース



図 6. 2022 年 3 月 14 日、冬眠場所確認

3 月 24 日、発信機で定位した箇所の落ち葉の下の土中で冬眠中のヤマネを確認した。地上から深さ約 4cm、幅 4 cm のくぼみで冬眠していた。その調査風景は、日本テレビの『King & Prince る。』（キンプる）で収録され、4 月 23 日に関東ローカルで放送された。

(2) 山梨県富士スバルラインにおけるヤマネ調査 (図 7, 8)

富士スバルラインのアニマルパスウェイを架設地選定のためのヤマネ調査用巣箱架設。大竹理事と吉田理事も参加いただいた。



図 7. 作業風景①



図 8. 作業風景②

(3) 山梨県小淵沢町でのヤマネ調査 (図 9, 10)

南アルプスによるヤマネに対する遺伝的な分断の影響を探るための調査地を 30 個設置。大成建設 OB の秋山さん、キープ協会の鳥屋尾さん、山下さんの 3 名がボランティアにて参加。



図 9. 巣箱架設風景



図 10. 集合写真



### 【巣箱架設とこれまでの調査地での巣箱増設】

島後では、新たな巣箱架設地を福浦地区と伊後地区（図 13）に設けた。



図 13. 伊後地区への巣箱架設

島前でのヤマネ生息の有無を調べるため、高崎山地区（図 14）と大山川地区に新たに架設した。この結果、島前と島後での巣箱個数は、267 個となった。今後、定点カメラと巣箱を使用しながら生息の有無の調査を実施予定である。



図 14. 高崎山への巣箱架設

### (5) 兵庫県六甲のヤマネ調査（図 15, 16）

兵庫県の六甲山地は、羽柴秀吉の時代から開発の歴史がある森である。これまで西宮市の甲山周辺でも巣箱調査を実施してきたがヤマネ生息は確認されていない。そこで、六甲山系の西宮市越水字社家郷山内の市有林を調査地とした。この森はリョウブ、ミツバアケビ、イヌツゲ、イヌガヤ、コバノガマズミ、アセビなどが繁茂する自然林である。巣箱を 20 個、関西学院大学の学生と共に設置し、中身の確認調査行ってきたが、2021 年度の調査終了に伴い、巣箱の回収を行った。なお、本調査地では、ヤマネの生息の確認はされなかった。



図 15. 回収時に確認されたヒメネズミの巣



図 16. 回収後巣箱

### (6) 環境 DNA を用いたヤマネの生態研究

天然記念物であるニホンヤマネ (*Glirulus japonicus*) の食性を非侵襲的に解明する手法を確立するとともに、森林生態系におけるヤマネの生態学的な役割を明らかにすることを目的とし、山梨県北杜市、三重県尾鷲市・熊野市、和歌山県串本町和深、長野県軽井沢、佐賀県、島根県隠岐に設置した巣箱、

およびその周辺から採取した糞を対象に、環境 DNA 分析を行った（個体を捕獲せずに環境サンプルから DNA 分析を行う）。各地より採取した糞（図 17）を冷凍便で福山大学の佐藤淳教授に送付し（図 18）、分析いただいた。



図 17. 蘚苔類の巣から発見した糞



図 18. 糞を入れた容器

山梨県北杜市の無脊椎動物食性（7～10月）については、ハエ目、チョウ目、カメムシ目、バッタ目が多く検出された。一方、植物食性（6月、8月、9月、10月）については、マタタビ科マタタビ属が高頻度で検出された。サルナシと種同定されていた配列も確認されたため、サルナシであろうと推察する。マタタビ属の検出頻度は9月以降に高く、サルナシの果実の成熟時期と一致する。その他、9月には、エノキ属、リンゴ属、ウツギ属、ヒサカキ属などが検出された。サンプル数が少ないため、明確な結論には至らないが、6月8月と9月10月の食性が異なるため、季節による植物食性の変動がある可能性を示唆した。

三重県尾鷲市、および熊野市の無脊椎動物食性（6月、10月）については、山梨県と同様に主にチョウ目やハエ目、バッタ目が高い頻度で検出された。それに加えて、コウチュウ目の頻度が高かった。ハエ目についてはショウジョウバエ科、チョウ目についてはヤガ科などが検出され、バッタ目については、バッタ科だけではなく、キリギリス科も検出された。尾鷲市と熊野市で無脊椎動物の食性に違いは見受けられなかった。植物食性（10月）については、尾鷲市において、モッコク科ヒサカキ属、ミカン科サンショウ属、マタタビ科マタタビ属が、熊野市において、ウルシ科ウルシ属が高い頻度で検出された。ヒサカキ、サンショウ、ウルシ、マタタビ属（おそらくサルナシ）のいずれも秋に果実が成熟するため、ヤマネはこれらの植物の果実を食べていると考えられる。

和歌山県串本町和深の無脊椎動物食性（10月）については、分析に成功したのが1サンプルのみであったため、詳細な食性の傾向を把握することはできなかった。しかし、上述の山梨県や三重県と同様にショウジョウバエ科やバッタ科が検出されるなど、ハエ目、チョウ目、バッタ目を中心とした同様の食性がみられた。植物食性（1月、6月、10月）については、三重県と同様にヒサカキ属が高頻度で検出された。さらに熊野市で見られたウルシ科ウルシ属も検出された。一方で、他では見られないモッコク科サカキ属、サクラソウ科（属名不明）、クスノキ科シロダモ属、クスノキ科ニッケイ属などが検出された。

長野県軽井沢と佐賀県、島根県隠岐について少数の個体の分析を行った。動物食性については、佐賀県で、他地域では検出のなかったナナフシ目が検出された。植物食性については、他地域と同様に、長野県、佐賀県、隠岐でマタタビ科マタタビ属が検出された。また、佐賀県でヒサカキ属が検出された。

一方で、長野県では、他地域では検出のなかったニレ科ニレ属が高い頻度で検出された。また、佐賀県でも、他地域では検出のなかったカバノキ科クマシデ属が検出された。ニレ属もクマシデ属も、ヤマネがどの部位を餌として利用しているのか詳細は不明である。

このように天然記念物であるヤマネにストレスを与えることなく非侵襲的にその存在を明らかにする手法を確立した。さらに食性を明らかにすることで、ヤマネが必要とする餌資源の一端を理解できるようになった。今後、分布が重要な意味をもつヤマネの保護・保全に有効活用できると考えている。

本研究では、冬眠前の9月、10月のサンプルの分析が主であったが、今後、冬眠後の春から夏にかけての食性を分析することで、ヤマネの食性の全体像が見えてくるものと思われる。

#### (7) ニホンヤマネのゲノム解析の研究

本研究は、国立遺伝学研究所の木下豪博士、岡山理科大学の布目三夫博士などと共に展開している。ヤマネのゲノム解析研究の大きな目標は、ヤマネの進化の歴史を知ること、日本の多様な環境へ適応する分子メカニズムを知ること、及びそれらを踏まえた上での適切な遺伝的多様性の保全対策を考えることである。4月、8月と死亡個体を研究所へ送付したが、解析に至らなかったため、引き続き解析を行う予定。また、7月にはメンバーを招集し、顔合わせを行った(図19)。



図19. 顔合わせの様子

#### (8) ニホンヤマネの分類学的研究

生物多様性保全は、種の保全が大きな柱であるが、その基本は種の規定である。ニホンヤマネは、一属一種とされているが、遺伝的に9つに分かれ、毛色も産地により異なるため、生物多様性保全の基本の面からもニホンヤマネを亜種として分類できるかの研究を開始した。本研究は、鈴木仁教授(北海道大学)、佐藤淳教授(福山大学)、木下豪博士(国立遺伝研究所)、布目三夫博士(岡山理科大学)らと共に開始した。2021年7月には、分類を「下顎骨」、「耳介」、「毛」、「ゲノム分析」で行うことを決定した。

ヤマネの毛を測る場所を特定し(図20)、毛色の数値化を試みた(図21)。また、12月には岡山理科大学の布目さんにDWIの事務所へお越しいただき、毛色の分析に関するミーティングを行った(図22)。今後、岡山理科大学と協働で研究を行っていく予定である。



図 20. ヤマネの背中の中の毛



図 21. 色の分析機器



図 22. ミーティング風景

(9) 繁殖システムと音声コミュニケーション研究 (図 23, 24)

ヤマネの交尾期は6月と推測される。交尾の際、音声により発せられる。それで2021年6月9日から6月23日までほぼ毎晩、雄2頭、雌2頭をケージに入れ、観察した。交尾も観察された。交尾は狭い場所で行われた。音声は、超音波のみ、可聴音と超音波が混ざるものが観察された。



図 23. 音声実験風景



図 24. ヤマネの交尾

(10) 里山の生き物調査 (山梨県北杜市下黒沢) (図 25)

北杜市高根町下黒沢で、2021年4月から2022年3月まで、毎月、1回、田んぼ周りの水路で水生生物の調査を実施した。約38種の生物を確認した。その中できれいな水の環境指標動物としてサワガニ、アブラヤハヤ (図 26)、プラナリアが発見された。



図 25. 調査風景



図 26. アブラハヤ

本調査から、水路は環境変動が進む現在、水辺の生物が生息する「最後の砦」のような環境であり、OECEM の 1 つの候補となる可能性がある。これらの生物は、日本テレビでジャニーズ事務所のタレントが出演する番組で 2022 年 4 月 23 日に紹介された。この番組の取材協力の意図は、若い人や様々な層の市民に身近な生物への関心を持っていただき、生物多様性保全の主流化への一助となるよう、番組作成に協力した。なお、本調査に関しては、現在報告書作成中であり、森田理事に確認を依頼する予定である。

調査協力者：中山孝志（KEEP 協会、研究員）

#### (1 1) 鳥類調査（山梨県北杜市下黒沢）

野鳥の調査を山梨県野鳥の会事務局長の小林氏と共に 2021 年 4 月から 2022 年 3 月まで毎月、1 回実施した。ラインセンサンス法で早朝に実施した（図 27）。その結果、計 53 種が確認された。ジョウビタキ、カッコウ、キビタキなどの減少が示唆された。なお、本調査に関しては、現在報告書作成中であり、森田理事に確認を依頼する予定である。

調査協力者：小林美博さん（日本野鳥の会山梨県支部、研究員）



図 27. 調査風景

## 4. 受託調査事業

### (1) 令和 3 年度 紀勢国道環境調査業務（調査業務・保全業務）

委託期間：2021 年 4 月～2022 年 3 月

業務実施回数：不定期に年数回程実施。

委託費：2,354,000円（税込）

調査内容：

【ヤマネ現地調査】

三重県紀勢道路の工事に伴う、現地指導及び現地調査。

巣箱架設地の確認と架設指導。

【ヤマネ保全対策】

三重県紀勢道路の工事に伴う、現地調査、パスウェイ設計指導及び現地指導、新型アニマルパスウェイの架設に伴うモニタリングに関する指導と植栽に関する指導の実施。

アニマルパスウェイに関するメンテナンスと新アニマルパスウェイの設置などに関する業務の遂行。

アニマルパスウェイの業務に関しては、(一社)アニマルパスウェイと野生生物の会と共働で実施。

(2) 令和2年度 折橋墓地移転に伴う新墓地造成調査業務委託業務

委託期間：2020年9月～2022年1月

業務実施回数：毎月1回実施。その他、打ち合わせなど。3月末に最終報告書を提出済み。

委託費：11,003,300円（税込）

\*ヤマネが捕獲されなかったため、3,296,700円ほどになる

調査内容：

三重県尾鷲市の折橋地区への墓地移転に伴う調査業務。巣箱を用いた調査、餌資源調査、環境調査、発信機調査（ヤマネが捕獲された場合）を実施。

(3) R2 峡北地域環境影響調査検討業務（設計共同体業務） 中部横断道路ヤマネ現地調査

委託期間：2020年4月～2021年10月

委託費：1,320,000円（税込）

調査内容：

長野県から静岡県へつながる予定の中部横断道に関するヤマネに関する環境調査

(4) 令和3年度 隠岐地域ヤマネ調査業務

委託期間：2021年4月～2022年3月

委託費：1,534,500円（税込）

調査内容：

隠岐の島町、西ノ島町内のヤマネに関する調査業務

## 5. 教育事業

(1) 教育活動（表3）（図28, 29, 30, 31, 32, 33）

本年度の教育活動は10回実施した。2020年度に引き続き、新型コロナウイルスの蔓延に伴い、オンラインでの開催が多かった。また、積極的にオンラインを利用することで、小学生の海外交流を促したり、外出が困難な子供たちに生き物のことを伝えた。

9月には、企業の環境リーダーの育成を目的とした講座を開催した。この講座については、2022年度の活動としても実施するため、2021年度からその準備を行っている。



図 28. 尾鷲小と東光小（台湾）交流授業



図 29. 県庁でのプレゼン



図 30. 隠岐の島中条小リモート授業風景

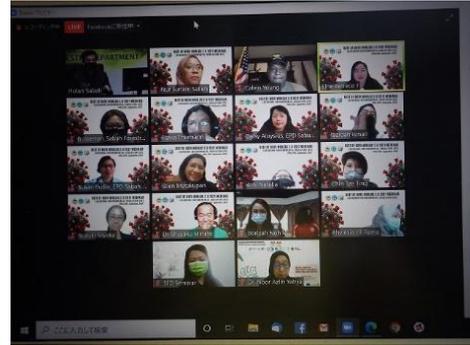


図 31. INVITATION AS A SPEAKER IN THE BEST OF BOTH WORLDS 2.0 2021



図 32. ちょこっとのぞき見！  
ヤマネの住む秋の森探検隊



図 33. 環境リーダーの育成講座

表 3. 2021 年度実施 教育活動一覧

	業務名	日付(期間)	実施場所	対象者	概要	備考
1	スマイルデー	2021年4月11日	オンライン	難病の子どもとそ のご家族	ヤマネをテーマに実施	(株)生態計画研究所からの依頼で協 働実施
2	尾鷲小学校(日本)と東光小学校(台湾)交 流授業	2021年7月13日	ZOOM	尾鷲小学校3年生 東光小学校6年生	日本と台湾の小学校がそれぞれの地元について紹介 し、交流する授業	
3	山梨県庁プレゼン	2021年8月11日	山梨県庁	県庁職員	富士山へApWAを設置する必要性を話した	
4	スマイルデー	2021年8月15日	オンライン	難病の子どもとそ のご家族	田んぼの生き物をテーマに実施	(株)生態計画研究所からの依頼で協 働実施
5	隠岐の島町立中条小学校講義	2021年9月9日	オンライン	中条小学校 5、6年生	2学期に向けて、湊の話と郊外活動としてのヤマネの調 査に関する質問などを受け付けた。	COVID-19の蔓延に伴い、オンライン で開催。
6	INVITATION AS A SPEAKER IN THE BEST OF BOTH WORLDS 2.0 2021 (BoBW)	2021年9月14日	オンライン	各国	コロナ渦による教育についての発表	
7	ちょこっとのぞき見！ ヤマネの住む秋の森探検隊	2021年10月9日	オンライン	一般市民	ヤマネをテーマに実施	(公財)藤原ナチュラルヒストリー財団 設立40周年記念事業として実施。
8	生き物の巣に関する企画展	2021年11月～	福島	一般市民	展示用巣材貸出	アクアマリンいなわしろカワセミ水族 館より依頼
9	ヤマネの事例から企業の生物多様性・SD Gsの視点を捉える ～八ヶ岳の森より～	2021年11月4日	オンライン	企業人	ヤマネや森林の生物多様性について紹介すると共に、 企業の環境リーダーの育成を行うことを目的に実施。	経団連自然保護協議会、(一社)生物 多様性アカデミーと協働で実施
10	エコプロ2021	2021年12月9日～11日	東京	一般市民	ApWAと協働でDWIとヤマネの紹介	
11	スマイルデー	2021年12月19日	オンライン	難病の子どもとそ のご家族	生き物の冬ごもりをテーマに実施	(株)生態計画研究所からの依頼で協 働実施
12	JICA青年研修 中南米(英語)「自然環境保全」コース	2022年2月9日	オンライン	中南米の環境活動 に関わる方	ApWAについて、活動と協働について紹介	

(2) 論文発表などの活動 (表 4)

2021 年は、湊代表理事が Folia へ Canopy Bridges Special Issue Submission の中で、ヤマネブリッジやアニマルパスウェイについて紹介する論文執筆し、現在投稿中である。また、DWI の活動として行ったオンライン講座に関して学会発表も行った。

表 4. 2020 年度実施 論文発表一覧

	タイトル	掲載誌名	発表・出版年月日	掲載ページ	発表・執筆者名	概要
1	オンラインによる生物教育の実践の試み	生物教育学会 2021大会	2022年1月8～9日		饗場葉留果,他	DWIで実施してきた、オンラインでの教育活動について報告
2	Canopy Bridges Special Issue Submission	保全論文集	投稿中		湊秋作,他	日本のcanopy bridgeの活動に関する紹介

## 6. 保護・保全活動

### (1) ヤマネ保護・保全の提案

#### 1：富士スバルラインへのアニマルパスウェイ設置の提案

(一社)アニマルパスウェイと野生生物の会と共に、2021年4月に意見書を山梨県知事に提出した。現在、スバルラインを管轄する山梨県道路公社、観光課課長らと協議を重ねているところである。湊代表理事が中心となり、2021年4月に山梨県知事に意見書の提出を行った。現在、建設に向けて調査を実施しながら、調整中。

#### 2：国交省中部地方整備局紀勢国道事務所への提案

三重県尾鷲市高速道路建設においてヤマネの生息する森を伐採して作られたトンネル入り口(図34)にヤマネの餌植物植栽を提案し、国交省は2つのトンネルの入り口にヤマツツジ、イズセンリョウ、ツバキなどヤマネの餌となる植物を植栽した(図35)。シカの食害を防ぐために図13のように、白くカバーが掛けられているのが植栽した植物である。図36は、カバーを外した植物である。現在は、今後の昆虫も含めたモニタリングの提案をしている。山の国である日本は道路に多くのトンネルを有し、森を伐採せざるを得ない状況にある。その伐採したところへヤマネや生物の利用する植物を植えることは、ヤマネ保護と生物多様性保全にとって重要と考える。

この高速道路建設は、熊野市へと続くので同様の提案を行った。



図 34. ヤマネの棲む森を伐採した道路



図 35. トンネル入り口に植栽された植物



図 36. トンネルの入り口の上に植栽した植物

#### 3：国交省近畿地方整備局紀南河川国道事務所への質問書・意見書の提示

上記の三重県の高速道路の和歌山県側を管轄する国交省近畿地方整備局紀南河川国道事務所は、実施していたヤマネを保護するための調査を中止した。それに対して2021年12月にそれへの質問書、意見書を提出したが、2022年4月末になってもその返答がない状況である。それに対し、

ヤマネは天然記念物であることから、それを担当する和歌山県教育委員会、環境省の田辺事務所に現状を知らせた。このように同じ紀伊半島の高速道路を建設する国交省事務所の環境保全への姿勢の明暗が明確になってきている。このような場合でも対処ができるよう、ヤマネを保護するための一般的な法則確立のために模索する。

## (2) 受託業務での保全活動

前述の受託業務を行うことで、ヤマネの保全へつなげていく。

## (3) ヤマネの保護活動と助言

日本各地からヤマネ保護についての相談を受け、可能な限り対応した。長野県軽井沢町、長野県原村からのヤマネ保護を実施した。佐賀県からはヤマネの巣がどうかの相談を受け、ヤマネと判定し、その巣の糞から前述のように食べ物を同定した。長野県糸魚川市周辺からもヤマネ調査方法の相談があり、助言を行った。

## 7. 広報活動

### (1) HP の運用

本年度より、団体用のホームページを開設した。管理は主に吉田理事が実施しており、定期的な更新ができています。現在、ヤマネについての問い合わせも増加傾向にあり、2022年5月に団体用の電話の契約を行った。

### (2) 団体用 Facebook の運用

本年度より、団体用の Facebook を運用開始。広報などに利用を開始しているが更新頻度が低いため今後の更新方法について検討が必要である。その他、Instagram なども用いた広報活動も検討中である。

## 8. メディア紹介 (表 5) (図 37, 38)

2021年度は、計13のメディアに紹介をいただいた。ヤマネやSDGs かるた、アニマルパスウェイに関する取材もあった。また、大きなところでは、日本テレビの『King & Prince る。』にて、ヤマネや里山の生き物が紹介された。



図 37. TBS 取材風景



図 38. 『King & Prince る。』スタッフ下見

表 5. 2021 年度 メディア情報発信一覧

メディア 分類	紹介メディア名 (番組名・掲載誌名)	タイトル	紹介日	内容	
1	テレビ	山梨放送	【特集】スバルラインが生息域分断か	2021年4月8日	富士山スバルラインによる遺伝子の分断についての研究について
2	ラジオ	文化放送 『SDGs Voice』	教育学部の若い世代の発想を、プロが支える 『SDGs かるた』	2021年5月10日 17:50~17:55 2021年5月11日 17:50~17:55	「SDGs かるた」の特徴などを湊代表理事が紹介
3	新聞	太平洋新聞電子版 (購読者限定)	台湾の子どもと交流 尾鷲の味覚をアピール	2021年7月14日	三重県尾鷲小学校と台湾の小学校のオンライン交流について紹介
4	新聞	紀勢新聞	台湾の子どもと交流 尾鷲の味覚をアピール	2021年7月15日	三重県尾鷲小学校と台湾の小学校のオンライン交流について紹介
5	新聞	山梨日日新聞	ヤマネの絵本北杜市に寄贈	2021年7月20日	絵本「ヤマネのマルくん、南の森へ」を山梨県北杜市の小学校5年生へ贈呈したことの紹介
6	新聞	山梨日日新聞電子版 (有料記事)	ヤマネの絵本北杜市に寄贈保護活動2団体	2021年7月20日	絵本「ヤマネのマルくん、南の森へ」を山梨県北杜市の小学校5年生へ贈呈したことの紹介
7	WEB	TBS 『どうぶつ奇想天外！ /WAKUWAKU』	【森の妖精】清里のニホンヤマネの暮らし	2021年8月11日	YouTubeで過去の放送の再編集版を掲載
8	雑誌	KNCF NEWS 経団連自然保護協議会 だより No.88	特集2企業の次世代環境リーダーの育成に向けたオンライン環境セミナーの実施	2021年夏&秋	次世代環境リーダーの育成のオンラインセミナー実施の紹介
9	絵本	ひさかたチャイルド	ヤマネのぼうやは ねむれない？	2021年11月12日	あとがき執筆
10	テレビ	TBS	やってみようよSDGs 地球を笑顔にするTV	2021年11月17日	ApWAに関する紹介
11	書籍	ためしてわかる 実験・観察 理科総合大百科	森と共生する心を育む「ヤマネの学習」①～④	2021年1月25日	尾鷲小学校、隠岐小学校、やまね学校などのヤマネをテーマとした教育活動について紹介
12	雑誌	セブンイレブン記念財団 みどりの風 No.69	アニマルパスウェイ 動物の命をつなぐ森の架け橋	2022年3月1日	アニマルパスウェイについて紹介
13	テレビ	日本テレビ 『King & Prince。』	岸、生き物図鑑をつくる	2022年4月23日	ヤマネや里山に暮らす生き物について紹介

## 9. 寄付関係

### (1) 自動販売機

2020年より、北杜市役所への設置について湊代表理事が担当者へ相談中である。2022年5月に、ベンダー企業のサントリーの新担当者がDWIの事務所を訪れた。今だ、設置に至っていないため、引き続き、交渉を進めて行く。

### (2) 会員募集

現在、会員管理システム(MiiT+)について、吉田理事が設定している。また、会員管理については、アースウォッチに所属する塚本正美さんに補佐を依頼予定である。募集時期については、2022年9月頃を考えている。

なお、会員規約についても再考する必要があるという声がある。

## 10. その他

### (1) 北杜市市制施行16周年記念式典で「善行表彰」受賞(図39)

2021年11月1日、山梨県北杜市「市制施行16周年」を記念し、ヤマネを題材にした絵本の寄贈により、子供たちの健全な教育の振興に多大な貢献をしたとの評価に対し、「善行表彰」を受けた。



図 39. 善行賞受賞